

Fukui Medical University

第2号

福井医大病院だより



平成15年8月



附属病院全景

CONTENTS

- | | |
|---|---|
| <p>2 福井医科大学附属病院の特徴
副学長・附属病院長 齋藤 等</p> <p>3 治験管理センター</p> <p>4 看護部コーナー</p> <p>5 第二内科・第三内科の御案内</p> <p>6 医療安全の取組「リストバンドについて」
[医療安全管理部]</p> <p>7 「生体画像医学」の研究
[高エネルギー医学研究センター]
消防訓練</p> | <p>8 中高年総合外来
人生の悪友としてのタバコそして禁煙外来</p> <p>9 院内禁煙について
最近の診察状況 (患者の統計)
病院Q & A</p> <p>10 患者相談窓口より
ボランティア活動が創る地域に開かれた病院
編集後記</p> |
|---|---|



福井医科大学附属病院の特徴 —開院20周年に向けて—

副学長・附属病院長
齋藤 等

大学病院は普通、大学医学部に附属しているの
で、教育と研究と臨床を三位一体で行っている特
徴があります。

1. 福井県で唯一の特定機能病院

特定機能病院の役割はいろいろありますが、
3割以上の紹介率が必要であります。すなわち、
難しい重症の病気が紹介されるような、高い信
頼性がなければなりません。

2. 医療保健が適用されない高度先進医療 を行う病院

大変高度で有益な医療ではあるが、まだ症例
数が少ない新しい治療や遺伝子診断など、医療
保険適用外の診断・治療を行っています。

さらに、平成15年6月からは後述するように、
包括医療を福井県で唯一行っています。

3. 新しい診断や治療の研究をする附属病院

いままでに行われてきた診断・治療より、新
しいものを基礎医学や臨床医学講座で研究・開
発をしています。今回、「画像医学」の研究に認
められた、先端研究拠点としての重点予算配分
によって、さらに飛躍するでしょう。

また、保険適用のない新しい診断や治療を国
費負担（年間約9,000万円）で行っています。

4. 医師・看護師を育成する医学部

臨床教育実習が始まると、学生達が外来や病
棟に実習に出て参ります。煩わしく思う方もお
られかもしれませんが、明日の日本の医療を担う卵と
して、育成にご協力ください。

5. 医学博士を育成する医学部大学院

医学に関する、いままでに知られていない新

しいことを研究するのが大学院で、新事実を発
見すると医学博士が誕生します。このための研
究者達も大学病院にいます。

6. 新薬の創成に関与

患者様の同意を得て、臨床研究も行うところ
であり、この協力が外国に負けない良い新薬を
つくり出す基になります。

以上のように、利益を度外視して、臨床、教育、
研究を精力的に行い、国民の医療向上に貢献して
います。全国でも82しかない少数精鋭の特定機
能病院であり、医療費高騰の原因になっていない
ことを理解していただきたい。

以下に、この10月の開院20周年に向けての
動きを列記します。

○特定機能病院における包括医療の開始

或る病気に対して、「手術あり」「手術なし」な
どに枝分かれした、1860種の診断治療分類を行い、
その1分画に対しては一定の医療費しか請求しな
い方式、すなわち「包括医療」が、本院では6月
1日から導入された。無駄のない、標準的正統派
治療を行い、良い治療結果を生み、早く退院さ
せる、という良質の医療を提供することになります。

○国際標準化機構（ISO）による第3者評 価を病院全体で取得

すでに「外来患者様に対する放射線部画像診断
サービスの設計及び提供」では、認証を取得した。
その結果、そのサービスが実際はかなり改善して
いる。今後は、秋頃までに病院全体で取得し、「安
全で質の高い医療」を提供していきたい。

○新臨床研修医制度への対応

平成16年4月から、2年間はいわゆる専門医
領域に属せず、プライマリーケアに必要な科を巡
回して、一般的な医療技術を習得させる制度に変
わる。この目的達成のために、本院は管理型病院
となって協力型病院と共に充実したプログラムを
既に決定し、過去3回の地域医療連携会議を経て、
万全の準備体制を整えている。8月から公募が始
まっています。

治験管理センター

製薬企業がひとつの新しいお薬を開発し販売に至るまでには、図1のような過程で十数年もの年月、数百億円もの費用を要するといわれています。当然、この期間内にお薬の安定性や効き目・副作用などについてさまざまな問題が起これば、開発は中止・断念されますので、最終的にお薬として承認されるものはごくわずかです。

『^{ちけん}治験ってなあに？』

治験とは製薬会社が創った新しいお薬を厚生労働省に認めてもらうために、ヒトに対する有効性(効き目)や安全性などの必要な資料を収集することを目的として、病院・診療所などに依頼して行われる臨床試験のことです(図1の「4」に相当します)。私たちが所属しているここ治験管理センターでは、薬剤師・看護師が治験コーディネーター(CRCともいわれています)として、治験に参加していただいた患者さまの相談やケアはもちろん、治験を担当するお医者さんのサポート、依頼した製薬企業の対応窓口として活躍しています。また事務局として、担当者がたくさんの書類の作成・管理・保管などの業務も行っています。このように治験管理センターでは、いろいろな職種の方が新しいお薬の開発に協力しています。

『治験って要するに人体実験のことでしょ!』

医薬品開発の段階の中で、ヒトへの臨床試験は避けて通ることができないので、通常の治療とは若干異なり、どうしても試験・研究の要素が伴います。しかし治験は、ヒトを対象に実施するものですから厳しい規則や基準(GCP:医薬品の臨床試験の実施に関する基準)が設けられています。この基準には、患者さまの人権を守り、安全でかつ科学的に実施しなければならないように定められています。治験に参加するかどうかは患者さまの自由であり、患者さまが同意していないのに強制されることは絶対にありません。たとえ参加することを断わったり、途中で同意を撤回したとしても患者さまが不利益を受けることは決してありません。またプライバシーも完全に保護されなければならないと定められています。この基準は日本独自のものではなく、アメリカやヨーロッパの国々でも同じ基準に従って治験は実施されています。

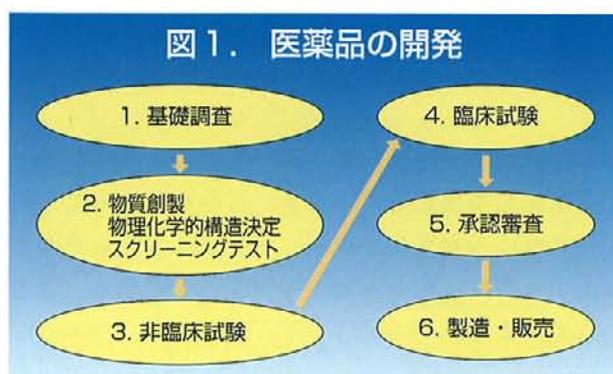
『治験に参加しても何も得ることはないでしょ!』

現在私たちが服用しているお薬は、前の世代の人達が治験に協力してくれたおかげで創ることができたものであり、過去にいい薬がなくて治療が困難だった病気も、現在では薬物治療により治癒が可能となったものも多くあります。言い換えると、治験に参加することは、同じ病気でも苦しむ次世代の人たちのために新しいお薬の開発に協力するという社会への貢献ともいえます。したがって、新しいお薬の開発は患者さまの協力なしにはできないのです。

治験に協力することで、当然患者さま本人のお薬に関する理解も深まり、その疾患の治療に十分な経験のある専門のお医者さんによる診察を受けられ、より詳細な検査を実施しますので、信頼関係がより密になることも期待できます。また治験に協力いただきますと、一部の診療費の支払いが軽減されますし、外来で実施する治験の場合には、来院ごとに交通費等の負担軽減費を受け取ることもできます。

逆に、治験は前述したとおり試験・研究の要素があるので、治験の内容によっては詳細な検査を実施するのに時間がかかったり、十分な治療効果が得られないこともあります。また治験に参加するには一定の基準をクリアしないと行けないので、参加したくてもその選択基準を満たしていなければ参加できない場合があります。

『治験』についての説明はいかがでしたか？
治験管理センターでは、厳しい基準のなかで適正に治験が実施できるよう、また協力していただいた患者さまひとりひとりに感謝し、さらに多くの患者さまに参加していただくために、日々業務に取り組んでいます。



看護部コーナー②

より質の高い看護の提供をめざして

— 認定看護師紹介 —

福井医科大学医学部附属病院看護部は、専門領域で必要とする可能な限り質の高い看護を提供しようと積極的に日本看護協会認定看護師の修得に取り組んでいます。

日本看護協会認定看護師とは

全国の保健師、助産師、看護師、准看護師の資格をもつ者の職能団体である日本看護協会が、水準の高い看護実践のできる看護師を社会に送り出すための資格認定制度で、その認定に必要な教育課程を修了し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術・知識を有することを認められた看護師であります。



定期的に認定看護師会議を開催

当院の認定看護師紹介

本院の登録者は4名（福井県登録者7名）であり、認定看護分野は感染管理、糖尿病看護、救急看護、がん化学療法看護です。認定看護師は専門分野における技術と知識を持って実践、指導、相談を行う役割があります。この4名の活動内容をご紹介します。

感染管理認定看護師（平成14年8月認定） 室井洋子

感染管理は、院内で感染のリスクの高い処置及び部署においてどのような感染がどれくらい起こっているかデータをとり（サーベイランス）、それを低減させるための対策について検討し、感染に関する相談や医療従事者に対して指導や教育を行っています。感染対策の基本である「手洗い」の指導や、タイムリーなSARS感染対策についてなど看護学生・看護職員を対象に指導を行っています。これからも医療の質の向上と効率の良い感染対策を目指して活動をしていきたいと考えています。

糖尿病看護認定看護師（平成15年8月認定） 浅川久美子

糖尿病は、患者様自身が日常生活の中で、食事・運動・生活のリズムを調整し、自己管理を継続することが重要です。糖尿病看護認定看護師は、患者様が自己管理に取り組み続けることができるために、必要な知識や技術の提供、自己管理への動機づけ、糖尿病や合併症に対する受容に向けての援助、自己管理行動の見直し、教育入院後の継続支援、インスリン導入やフットケアについての指導を患者様のペースに合わせて行っています。

救急看護認定看護師（平成9年12月認定） 高山裕喜枝

看護スタッフとともに救急処置介助や重症患者様の看護ケアを実践し、また救急で運ばれ動揺している患者様や家族に対して心のケアを行っております。病気は突然、予期せず発病します。患者様は、重篤な状態となり様々な機器を装着することもあります。そのような中で、より安全で安楽な治療が受けられるよう看護職員全員を対象とした救急蘇生についての研修等を担当し実践しています。

がん化学療法看護認定看護師（平成15年8月認定） 久保博子

がん化学療法は、常に新たな治療方法や新薬が登場する変化の激しい領域であり、患者様のニーズも変化し多様化しています。この背景をふまえて、患者様の持つ心理・社会的な状況を理解し、がん化学療法の効果を最大限に活かせるような看護をスタッフと協力して、実践していきたいと考えています。また、抗がん剤が持つ毒性に留意し、患者様の安全を考え、看護の水準を高めていきたいと考えています。

第二内科・第三内科の御案内

第二内科

第二内科では、神経内科、消化器内科を中心に診療していますが、膠原病や生活習慣病を含めて内科全般の疾患を対象として診療を行っています。

● 神経内科

頭痛、めまい、しびれ、てんかん、脳血管障害、パーキンソン病などの日常的神経疾患から、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、運動ニューロン病、多発性筋炎などの専門的神経疾患までの幅広い診断・治療を行っています。主な検査としては、脳波、筋電図検査、神経伝導検査、誘発脳波、頸部・下肢血管超音波検査、経食道血管内視鏡検査、筋・神経生検を行っています。また、放射線科および高エネルギーセンターと協力して、MRIやPETなどを用いて脳・脊髄の画像診断や機能解析を行っています。脳血管障害や意識障害などの救急疾患も積極的に受け入れています。変性疾患では、運動ニューロン病、脊髄小脳変性症などを福井県難病支援センターとも協力して診療・支援しています。ギラン・バレー疾患に対する血液浄化療法や免疫グロブリン大量療法、多発性硬化症に対するインターフェロン療法、さらには、顔面痙攣などに対するボツリヌス筋肉注射療法などの最新の治療を行っています。

● 消化器内科

各種消化器疾患（食道、胃、腸、肝臓、胆・膵）の診断と治療を行っています。特に、消化器内視鏡検査・治療は、光学医療診療部と共に、毎日対応ができる体制を整えています。主な診療内容としては、①食道癌、胃癌、大腸癌に対するEMR（内視鏡的粘膜切除術）、②肝硬変の合併症である食道静脈瘤に対する内視鏡的治療（EIS, EVL）、③総胆管結石に対する内視鏡的結石除去術（EST）、④進行胆管癌および膵癌に対する内視鏡的胆道ドレナージ、⑤消化性潰瘍の原因であるヘリコバクター・ピロリ除菌治療、⑥緊急内視鏡診断・治療（内視鏡的止血術や異物除去）、⑦肝臓癌に対する肝動脈塞栓療法（TAE）、エタノール注入療法（PEIT）、ラジオ波焼灼療法（RFA）、動注化学療法、⑧B型、C型肝炎に対する治療、⑨その他の各種肝疾患に対する診断・治療を行っています。

第三内科

● 内分泌・高血圧内科

脳下垂体疾患（巨人症など）、甲状腺疾患（バセドウ病など）、副甲状腺疾患、副腎疾患（クッシング病、アルドステロン症）など内分泌疾患の診療を行っています。

高血圧について、循環器、腎・内分泌に関連した病態を対象に専門性の高い診療を行っています。また特にご希望の方には、血圧に関係する遺伝的体質の解析や、いわゆるテーラーメイド医療を取り入れた高血圧診療を行っています。

● 呼吸器内科

院内唯一の呼吸器内科として、呼吸器疾患全般の診療を担当しCOPD、びまん性肺疾患、肺癌、呼吸器感染症等の診療を中心に精力的に行っています。診断、治療に難渋するびまん性肺疾患や、進行期肺癌、肺血管性病変などは毎月行われる第二外科、放射線科との合同カンファレンス等を介し、各科協力した院内での総合診療を実践しています。また、しばしば救急外来に来院される気管支喘息発作、急性肺炎、急性呼吸不全、胸膜炎、気胸、急性肺血栓塞栓症などにも、救急部やICUとの協体制の上、専門的立場から対応しています。

● 糖尿病、高脂血症、生活習慣病

近年、増加の一途をたどる糖尿病、高コレステロール血症などの生活習慣病に対する診療を、最新の治療理論に基づいて行っています。糖尿病に関しては、医師（専門医）、看護師、栄養士、糖尿病療養指導士から構成される診療チームにより、糖尿病教室の運営、患者会の開催や、外来、病棟での患者様に対する個別指導などを精力的に行っています。初診症例や軽症例に対しては教育目的の短期入院プログラム（クリニカルパス）に則って、難治例や重度合併症を有する症例に対しては、循環器科、腎臓内科、眼科、外科等との協力で高度先進治療を行っています。しかし生活習慣病などの慢性疾患では合併症の予防が第一ですから、糖尿病教室や講演会などによる地域の皆様への情報提供、啓蒙に力を入れていきたいと考えています。

● 循環器内科

狭心症，急性心筋梗塞といった虚血性心疾患，弁膜症，心筋症，不整脈を中心に幅広い分野で心臓病の診療を行っています。急性心筋梗塞，急性心不全については常に救急患者様を受け入れ，患者様のクオリティ・オブ・ライフを向上させる

ため早期診断，早期治療に努めています。虚血性心疾患に対しては適応のある疾患に経皮的冠動脈インターベンションを行っています。血管内超音波を使用し，安全でより確実な治療を目指しています。不整脈に対しては薬物治療を中心にペースメーカー手術を行っています。

医療安全の取組「リストバンドについて」

医療安全管理部

○ 早くから事故防止にリストバンドを活用しています

本院では，手術患者さまの取り違い事故防止を目的に，平成11年よりリストバンドの装着を開始しました。現在はバーコード付きのリストバンドになり，医療事故を防止し，安全な医療の提供に活用しています。

○ バーコードを活用した最先端の輸血事故防止対策

本院ではリストバンドと輸血のバーコードを携帯型のコンピューターで読み取って照合し，輸血事故を防止しています。



○ 患者さまの確認にリストバンドを活用

入院されたら，医師と看護師でリストバンドを装着いたします。患者さまの同一性の確認が行い難い手術室での活用の他，安全な医療を正しく提供するため，氏名の確認をリストバンドで行っています。



「生体画像医学」の研究

高エネルギー医学研究センター

文部科学省は、世界的研究教育拠点の形成促進を目的として、研究分野毎に20～30拠点をを選び、21世紀COE（Center Of Excellence “卓越した研究拠点”の略）と名づけて5年間にわたる重点的予算配分を行っています。本年度は医学を含む5分野での選考が行われ、福井医科大学における「生体画像医学の統合研究プログラム」が採択されることとなりました。

福井医科大学は、高エネルギー医学研究センター等を中心に、放射線を用いる画像診断・治療を充実させるための研究を積極的に進めております。今回のCOE採択は、画像医学を扱う研究教育拠点として国内唯一のものであり、これを契機としてこの分野を目指す若い医師・研究者が国内外から福井に結集するものと思われれます。

昨年度より福井医科大学で保険診療として実施が開始され全国的にも急速に普及しつつあるFDG-PET検査はこの研究分野での大きな成果のひとつであり、今後の研究進展がさらに新しい診断・治療法を臨床に供するようになることが期待されます。本COEの設置により、福井医科大学附属病院が新しい画像医学の発信地として世界に認められ、また最先端技術を駆使する地域医療の実践地として患者様に喜ばれる病院となることをめざして努力したいと考えております。



高エネルギー医学研究センター

消 防 訓 練

本院では、教職員・学生の防火・防災に関する意識高揚と、非常時の臨機対応を目的に春に消防訓練、秋に防災訓練と年2回訓練を実施しています。今年度は6月24日（火）附属病院を中心とした入院患者様の病棟で消防訓練を行いました。

《基礎訓練》

粉末消火器の取扱訓練を新規採用職員対象に医療関係従事者、院内学級の児童・教諭ら約60名が恐る恐る火元に近づき消火器を操作しました。

また、引き続き、屋内消火栓の取扱訓練を東病棟1階東側入口の屋内消火栓路上で、本学自衛消防隊による各消火班がハッピー姿で、消防署員の指導の下、模範的な操法訓練との消防署からのお褒めをいただき、本番さながらの消火活動を行いました。

《総合訓練》

午後から、入院患者様の避難誘導を中心とした総合訓練を、クリーンゾーン設備のある東病棟5階（第一内科）を出火想定場所として設定し、例年とは違った実際の患者様の状態をよりリアルに、ストレッチャー、車椅子、ME機器・点滴等、N95マスク及びサージカルマスクを使用した特有の避難事例を想定し、避難誘導班が模擬患者30名を患者様の見守る中、避難誘導を行いました。

この訓練を通じて、更なる防火・防災に対する意識が高揚しました。



中高年総合外来



小辻 文和 (産科婦人科長)

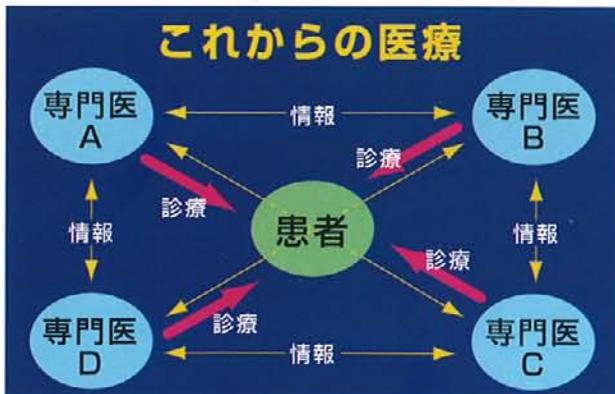
中高年女性の総合医療—産婦人科医、内科医、整形外科医による総合診療：高齢化社会における新しい医療を目指して—

1999年4月より、産婦人科医、内科医、整形外科医が合同で中高年女性を診療する中高年総合外来がスタートしました。全国で初めての試みでありマスコミをはじめ関係方面より注目されています。

女性は閉経を過ぎた頃から、のぼせ、鬱、関節痛、耳鳴り、めまいなどのいわゆる更年期症状が出てきます。またこれにとどまらず、尿失禁、骨粗鬆症、高コレステロール血症、心筋梗塞や脳梗塞、記憶障害といった異常が次々と出てきます。これらの症状は従来は老化現象と考えられてきましたが、最近になり女性ホルモンが欠落することと深く関わる事が明らかになりました。患者さま達は症状に合わせて、内科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科、精神科、耳鼻科などいろんな診療所を受診されていると思います。

福井医科大学附属病院では産婦人科医、整形外科医、内科医が一つの診察室に集まり、このような悩みをもつ患者さまを合同で診療しています。その上で、患者さま毎に必要な検査と治療を医師が相談しながら決めます。一回の受診で全ての専門医の診察を受けることが出来るので、患者さまには大きな時間の節約となります。また、検査やお薬に重なりが出る事が無く無駄がありません。(参考図参照)

のぼせ、鬱、関節痛、耳鳴り、めまいなどの更年期症状に限らず、尿失禁、骨粗鬆症、高コレステロール血症などでお困りの方は是非ご相談ください。



人生の悪友としてのタバコそして禁煙外来



石崎 武志

(看護学科教授、呼吸器内科医、タバコ禁煙外来医)

タバコはわが国に南蛮人によって鉄砲とともに伝来しました。西洋文化の香りだったのです。タバコは人の就労意欲の妨げになりそして社会の悪い風潮として江戸幕府はたびたびタバコ禁煙令を出しましたが、うまくいきませんでした。福井の歌人、橘曙覧も「たのしみは心にかぶはかなごと思ひつづけてたばこすふとき」と歌っています。庶民の楽しみの一つだったのでしょう。明治政府も明治33年に未青年者喫煙禁止法を制定し、放置した場合、親が罰せられると規定しました。

街角(医療施設内にも)に氾濫するタバコ自動販売機の野放しになっている現在、この法律は全く死んでいます。「自動販売機は日本の文化だ」、もちろん、皮肉です。そして、テレビでは某有名スターがおいしそうにタバコをくゆらせている。全く、タバコの誘惑にあふれているわが国です。

日本人のタバコ消費量は世界第3位で、一人当りは第1位でしょう。そして、タバコ関連の病気(肺癌、COPD、心筋梗塞、脳血管障害など)で死亡する人が増加しています。関連医療費など社会コストが年間5兆6千億円にのぼり、タバコ売上げなどの2兆8千億円の経済効果をはるかに超えています。

タバコの害の研究も進み、タバコ喫煙者本人はもとより周りの人々にも受身(受動)喫煙という害を与えることも判明しました。なかなか禁煙できない理由にニコチン依存性と精神的依存性があることも判明しました。ニコチン依存性はタバコ喫煙者によってそれぞれ至適ニコチン濃度が異なるので、軽いタバコに変えても結局本数が増え、もとの木阿弥となります。かえって一酸化炭素濃度が体内で増加して血管・細胞に悪影響を与えます。ニコチン依存性はニコチンパッチ・ガムで代替できます。むしろ問題は精神的依存です。禁煙外来では、このニコチン依存度と精神的依存度の程度を簡単な質問紙で判定し、吐く息の一酸化炭素濃度を器械で計ります。その程度に従ってニコチンパッチを処方します。今後、薬剤師の先生の御協力を得て、よりきめ細かい指導が出来るでしょう。禁煙外来に来られても失敗する場合もあり

ますが、「だから止められない」とは思い込まないで、また、何度でも気長に挑戦することが、禁煙成功のコツです。

WHOからタバコに関する悪の枢軸とされた日本政府（残る2つはアメリカとドイツ）は重い腰

を挙げ始め、本年5月1日に健康増進法第25条に「公共の場、観覧場、飲食店その他の多数の者が利用する施設管理者は、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない」と謳いました。今後の運用が期待されます。

院内禁煙について

病院は、病気を診断し治療するとともに、予防可能な病気を未然に防ぐことが大切な使命であります。福井医科大学医学部附属病院では、国民の皆様の健康を守り、高度先進医療を行う特定機能病院として、病院内全ての場所において禁煙とし、皆様とともに健康で快適な社会の実現を目指しております。

この取組は、タバコを吸われない患者様に、より安全で快適な療養環境を提供するだけでなく、喫煙される方々にもこれを機にご自分の健康を考え、是非とも禁煙に取り組んでいただく切っ掛けとしていただこうというものです。

なお、トイレ等人目のつかない所で喫煙されますと防火管理上大変危険です。

趣旨をご理解いただき、院内禁煙にご協力くださいますようお願いいたします。



最近の診察状況（患者の統計）

区 分	外 来 関 係			入 院 関 係		
	患者延数	1日平均	院外処方箋発行率	患者延数	1日平均	平均在院日数
1月～6月	116,379 人	5,821.3 人	72.55 %	88,308 人	488.4 人	25.7 日
7月	21,147	1,007.0	73.20	14,977	483.1	22.7

※患者紹介率：診療報酬上の紹介率

※病床数：600床

※平均在院日数：一般病床（559床）の平均在院日数

病院Q&A

Q 大学附属病院では、入院の医療費が包括払いとなったと聞きますが、どのようなものでしょうか

A 高度な先進医療を行う大学附属病院等に入院した場合、病名や治療方法別に分類され、分類毎に定額化された医療費の支払い方法を「包括払い」といい、本院は今年6月から導入しています。

包括払いは、入院基本料、検査代などが1日定額点数としてセットされ、従来の検査や治療を受けるごとに医療費が加算される「出来高払い」を是正するために考えられたものです。

包括払いの対象となるのは、入院基本料のほか、検査、画像診断、投薬、注射、薬剤などの費用ですが、手術、麻酔、内視鏡検査等一部の検査及び長期入院などは、従来の出来高で計算されます。

このように、大学附属病院に入院したほとんどの患者さまは、病名や治療方法などによる1,860に区分された定額料金（病院ごとの調整係数により金額が異なる）と、手術などの出来高払いを合計した医療費を支払うことになります。

包括払いは、入院当初に主病名により暫定的に決めますが、退院される時に最も医療資源を投入した病名をもって決定されますので、月を跨いで入院される場合は精算が必要となります。

詳しいことは、患者相談窓口までお気軽にお問い合わせください。

患者相談窓口より

「患者相談窓口」では、入院中あるいは外来通院中の患者様・ご家族の方の療養生活を支援するため、次のようなご相談に応じておりますので、お気軽にご相談ください。

相談時間は、平日8時半から17時までです。(12時以降は、外来窓口にお申し出ください)

公費負担医療に関する相談

特定疾患、小児慢性特定疾患、精神通院公費負担、生活保護等、公費負担医療の事務手続き

経済的支援に関する相談

高額医療費、高額医療費融資制度、公費負担医療、身体障害者福祉制度、障害年金等各種制度の紹介および手続きの説明

診療・看護に関する相談

病状に対する受診診療科について、総合診療部の医師及び看護師がご相談をお受けします

交通事故に関する相談

お支払いのご相談等

その他各種相談及び苦情

ボランティア活動が創る地域に開かれた病院

本院では、多くのボランティアの方々に活躍していただいております。

外来のホールでは、可愛い青いエプロンをつけた本学の学生ボランティアサークルと一般のボランティアの方々に、外来患者さまの診療手続きや案内、料金精算機の利用のお手伝い、身体の不自由な方や車椅子移動時のお世話など、心のこもったお手伝いをしていただき、患者さまから大変感謝されています。

また、鳴鹿ボランティアの方々には、病院前花壇に季節の花を植え、外来ホール及び病棟各階ディールームのコーナーに生け花を装飾していただき、患者さまや職員の心に「癒し」のプレゼントをいただいております。

もし、ボランティアの方々を見かけましたら、「ご苦労様」のやさしい声をかけていただきたいと思います。



編集後記

本年10月に福井大学と福井医科大学が統合します。「福井医大病院だより」は今回で最後となりますが、病院長も代わり新体制の下、引き続き新「福井大学」の病院だよりとして発行の予定です。

今後ともご愛読くださいますようお願い申し上げます。

福井医科大学医学部附属病院 広報誌編集小委員会

〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下台月23-3
E-mail : info@fmsrsa.fukui-med.ac.jp